

実習（インテリア類型）

教 科	工業	単位数	4	学科・学年	建築インテリア工学科 2年
使用教科書					
副教材等	担当教員が配付する資料等				

「実習」の到達目標は

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 工業の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 工業の各分野の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 工業の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	工業技術の建築インテリア分野に関する知識と技術を身につけ、工業の発展と環境・資源などとの調和のとれたものづくりを合理的に計画し、実際の仕事を適切に処理する技能を身につけている。	工業技術に関する諸問題の適切な解決をめざして、広い視野から自ら思考し、基礎的な知識と技術を活用して適切に判断し、その結果を的確に表現し伝える能力を身につけている。	工業技術について主体的に興味・関心を持ち、その改善向上をめざして意欲的に取り組むとともに、社会の発展に役立つ技術開発を積極的に学ぶ態度を身につけている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回の定期考査 ・レポートにおける記述 ・授業中の発言 ・作品の仕上がり 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間3回の定期考査 ・レポートにおける記述 ・授業中の発言 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言 ・レポートにおける記述 ・授業中の行動

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめり(単元)	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ワゴンの製作	<ul style="list-style-type: none"> 手加工に必要な道具の基本的な使い方を理解し、道具の特質を生かした実践的な知識・技術を身につけている。 機械加工に必要な基本的な知識を理解し、木工機械を正しく使い安全作業ができる実践的な知識・技術を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 手加工に必要な道具の基本的な使い方を理解し、加工において、道具の特質を生かし判断し実践的できる力を身につけている。 機械加工に必要な基本的な知識を理解し、木工機械の正しい使い方を判断し、安全作業ができる実践的な力を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 手加工に必要な道具の基本的な使い方を理解し、加工において、道具の特質を生かし、意欲的に取り組む態度を身につけている。 機械加工に必要な基本的な知識を理解し、意欲的に作品製作に取り組む態度を身につけている。
椅子の製作	<ul style="list-style-type: none"> 手加工に必要な道具の基本的な使い方を理解し、道具の特質を生かした実践的な知識・技術を身につけている。 機械加工に必要な基本的な知識を理解し、木工機械を正しく使い安全作業ができる実践的な知識・技術を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 手加工に必要な道具の基本的な使い方を理解し、加工において、道具の特質を生かし判断し実践的できる力を身につけている。 機械加工に必要な基本的な知識を理解し、木工機械の正しい使い方を判断し、安全作業ができる実践的な力を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 手加工に必要な道具の基本的な使い方を理解し、加工において、道具の特質を生かし、積極的に取り組む力を身につけている。 機械加工に必要な基本的な知識を理解し、意欲的に作品製作に取り組む態度を身につけている。
デザイン	<ul style="list-style-type: none"> PC やソフトの操作方法を理解し、正しく操作ができる実践的な知識・技術を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> PC やソフトの操作方法を理解し、作品製作に取り組み実践的に表現する力を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> PC やソフトの操作方法を理解し、意欲的に作品製作に取り組む態度を身につけている。
看板の製作	<ul style="list-style-type: none"> レタリングやデザインについて正しく理解し取り組むとともに、実践的な知識・技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> レタリングやデザインについて正しく理解し取り組むとともに、実践的に表現する力を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> レタリングやデザインについて正しく理解し意欲的に作品製作に取り組む、態度を身につけている。
1年間の評定は、4つの講座を、知識・技能（技術）を重視し総合的に判断して決定します。			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			考查範囲
				知・技	思・判・表	主	
1学期～3学期	4月～3月	ワゴンの製作 ・製図 ・加工、組立 ・塗装	・ワゴンの製作を通じて、手加工、機械加工を行い、木工機械の扱い方を中心に家具製作に必要な知識・技術を学ぶ。	○	○	○	一学期期末考查・二学期中間考查・二学期期末考查・学年末考查で各パートの考查を行う。
		椅子の製作 ・加工、組立 ・塗装	・椅子の製作を通じて、手加工、機械加工を行い、木工機械の扱い方を中心に家具製作に必要な知識・技術を学ぶ。また、材料の接ぎ合わせを行い、小物の椅子製作を学ぶ。	○	○	○	
		デザイン ・インテリアデザイン ・キーホルダーの製作	・建築物のインテリアをコーディネートについての基本を学び、CADを用いて家具の配置や色彩などを行い、プレゼンボードを作成し提案する方法を学ぶ。 ・PCを使いキーホルダーをデザインし、レーザー加工機で加工するICT技術を学ぶ。	○	○	○	
		看板の製作 ・クラフトデザイン ・レタリング	・文字に造形的な配慮を施し、マイルームの看板を制作することで、レタリング技術とデザイン力を学び、自分の名前をわかりやすく表現する加工技術を学ぶ。	○	○	○	
4パート編成で、4講座をローテーションする							

製図(インテリア類型)

教 科	工業	単位数	3	学科・学年	建築インテリア工学科・2年
使用教科書	インテリア製図(実教出版)				
副教材等	担当教員が配布するプリント				

「製図(インテリア類型)」の到達目標は

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の建築インテリア分野の製図に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 工業の建築インテリア分野に関する製図について日本工業規格及び国際標準化機構規格を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 製作図や設計図に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 工業の建築インテリア分野における部品や製品の図面の作成及び図面から製作情報を読み取る力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	製図に関する学習や作図・課題演習を通して、製図に関する基本的な概念や総合的な把握の仕方を理解し、作図手順などの知識を身につけている。	作図に関する諸問題を総合的な見地からの確に把握し考察を深め、製図における基礎的・基本的な知識を活用して適切に思考・判断し、創意工夫した製図法で的確に表現する力を身につけている。	建築・インテリアに使用される図面を作成することに興味関心をもち、主体的に学習に取り組むとともに、技術者として望ましい心構えや態度を身につけている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・線の使い分け ・課題提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の表現 ・線の表現 ・問題集の取り組み状況等 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業準備 ・授業態度 ・課題の提出状況

2. 評価の規準(及び年間の評定)

内容のまとめ(単元)	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第4章 製図の規約	・製図の規約について、設計者の意図を明確に伝えるための共通のことであること理解できる。	・製図の基本である線と文字の表し方やかき方について適切に思考・判断し、正確で美しい線や文字の表現方法を身につけている。	・製図技術の向上に向けて努力することができる。 ・提出期限を守ることができる。

第5章 家具製図	<ul style="list-style-type: none"> 家具設計製図の具体的な流れの理解に意欲的に取り組み、実践的な技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 家具図面の描き方の手順に常に思考・判断し、正しい線の使い方によりきれいに描きあげることに、実践的な行動力を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 製図技術の向上に向けて努力することができる。提出期限を守ることができる。
<p>・1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、3観点をバランスよく判断して決定します。</p>			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価の観点		
				知・技	思・判・表	主
1 学 期	4 5	第4章 製図の規約	<ul style="list-style-type: none"> 表示記号など正しく読み取ることができる。 基本的な図法の知識を身につけている。 正しい線の用法と文字や寸法の説明ができる。 仕口の種類・構造を理解している。 	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	6 7 8 9	第5章 家具製図	<ul style="list-style-type: none"> 製図に必要な基礎知識を身につけている。 立体の図形化と立体化に対する想像力と思考力を身につけている。 図面理解、線種の区別、正確な寸法により作図ができる。 線の明瞭さ、筆圧、線のおさめ、用紙の汚れ、バランス 	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○
2 学 期	10 11 12		<ul style="list-style-type: none"> 家具製図の目的、製図の順序を理解している。 図面を正しく読み取り、寸法や構造などから実物を想定できる。 図面の基本的な表し方を理解している。 製図に必要な基礎知識を身につけている。 図面理解、線種の区別、正確な寸法により作図ができる。 	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
	1 2 3		<ul style="list-style-type: none"> 図面を正しく読み取り、寸法や構造などから実物を想定できる。 フリーハンドの基本的な表し方を理解している。 図面を正しく読み取り、寸法や構造などから実物を想定できる。 図面の基本的な表し方を理解している。 図面理解、線種の区別、正確な寸法により作図ができる。 線の明瞭さ、筆圧、線のおさめ、用紙の汚れ、バランス 	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
3 学 期				○	○	○

建築構造

教 科	工業	単位数	2	学科・学年	建築インテリア工学科 2年
使用教科書	建築構造（実教出版）				
副教材等	図説 建築資料集（実教出版）、建築構造演習ノート（実教出版）				

「建築構造」の到達目標は

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、建築物の構造の提案に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 建築物の構造について荷重に対する安全性や材料の特性を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 建築物の構造や建築材料に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 安全で安心な建築物の構造を実現する力の向上を目指して自ら学び、建築の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・ 技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の 観点の 趣旨	建築物の構造や建築材料に関する基礎的な知識の習得をもとに、建築に関わる諸事項を合理的かつ的確に遂行する技術や技能を身に付け、環境への配慮を心がけたうえで活用することを理解している。	建築物の構造や建築材料に関する基礎的な知識や技能の習得をもとに、建築物の設計や施工をするときに生じる諸問題の解決を目指して自ら思考し、判断し創意工夫する能力を身に付けるとともに、その成果を適切に表現することを考えている。	建築物の構造や建築材料に関心を持ち、これらに関する基礎的な知識や技能の習得に粘り強く取り組むとともに、学習状況を把握し、自ら立てた学習計画により取り組もうとしている。
評価の 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、小テスト、宿題テスト（知識・理解を問う） ・確認プリントやワークシート、授業ノートの記述内容 ・成果物（授業ノート、授業プリント、レポート内容） 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査、小テスト、宿題テスト（思考・判断・表現を問う） ・思考・判断した過程や結果を適切に説明（表現・発言）できる。 ・確認プリントやワークシート、授業ノートの記述内容 ・成果物（授業ノート、授業プリント、レポート内容） 	<ul style="list-style-type: none"> ・出席状況 ・授業準備（必要な持ち物、事前課題提出等） ・授業態度（身だしなみ、言葉遣い、挙手、取組状況等） ・成果物（レポート提出、課題提出、授業ノート、授業プリント等） ・生徒自己評価 ・生徒相互評価

2. 評価の規準（及び年間の評定）

単元	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3章 鉄筋コンクリート構造	<ul style="list-style-type: none"> 鉄筋コンクリート構造のうち、おもにラーメン構造の構造形式や構成部材、および鉄筋コンクリート構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識を習得し、こんにちの技術の観察をふまえ、鉄筋コンクリート構造に関する諸事項を合理的かつ的確に遂行する技術や技能を身に付け、環境への配慮を心がけたうえで活用することを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄筋コンクリート構造のうち、おもにラーメン構造の構造形式や構成部材、および鉄筋コンクリート構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識をもとに、身近な建築物を観察し、構造形式や構成部材、建築材料について考え、自ら構想する建築物に適する構造形式や構成部材、建築材料を適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けるとともに、その成果を適切に表現することを考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 鉄筋コンクリート構造のうち、おもにラーメン構造の構造形式や構成部材、および鉄筋コンクリート構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識や技能に関心を持ち、これらの習得に向けて粘り強く取り組むとともに、学習状況を把握し、自ら立てた学習計画により取り組もうとしている。
4章 鋼構造	<ul style="list-style-type: none"> 鋼構造のうち、おもにラーメン構造の構造形式や構成部材、および鋼構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識を習得し、こんにちの技術の観察をふまえ、鋼構造に関する諸事項を合理的かつ的確に遂行する技術や技能を身に付け環境への配慮を心がけたうえで活用することを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 鋼構造のうち、おもにラーメン構造の構造形式や構成部材、および鋼構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識をもとに、身近な建築物を観察し、構造形式や構成部材、建築材料について考え、自ら構想する建築物に適する構造形式や構成部材、建築材料を適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けるとともに、その成果を適切に表現することを考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 鋼構造のうち、おもにラーメン構造の構造形式や構成部材、および鋼構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識や技能に関心を持ち、これらの習得に向けて粘り強く取り組むとともに、学習状況を把握し、自ら立てた学習計画により取り組もうとしている。
5章 合成構造	<ul style="list-style-type: none"> 合成構造の構造形式や構成部材、および合成構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識を習得し、こんにちの技術の観察をふまえ、合成構造に関する諸事項を合理的かつ的確に遂行する技術や技能の概要を身に付け、環境への配慮を心がけたうえで活用することを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 合成構造の構造形式や鋼製部材、および合成構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識をもとに、身近な建築物を観察し、構造形式や構成部材、建築材料について考え、自ら構想する建築物に適する構造形式や構成部材、建築材料を適切に判断し、創意工夫する能力を身に付けるとともに、その成果を適切に表現することを考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 合成構造の構造形式や鋼製部材、および合成構造に用いられる建築材料に関する基礎的な知識や技能に関心を持ち、これらの習得に向けて粘り強く取り組むとともに、学習状況を把握し、自ら立てた学習計画により取り組もうとしている。
<p>1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、知識・技能（技術）を重視し総合的に判断して決定します。</p>			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			考查範囲
				知・技	思・判・表	主	
1学期	4	第3章 鉄筋コンクリート構造 1 構造の特徴と構造形式	鉄筋コンクリート構造の特徴を把握させ、現在、一般的に用いられている構造形式を理解させる。	○	○		1学期中間考查
		2 鉄筋	鉄筋の形状や規格およびその表示方法を理解させる。	○		○	
		3 コンクリート (1 コンクリートのあらし～3 骨材)	コンクリートの組成などあらしを把握したうえで、コンクリートの材料となるセメント、水、骨材に要求される性能について理解させる。	○		○	
	5	3 コンクリート (3 フレッシュコンクリート～8 コンクリート製品)	フレッシュコンクリートおよび硬化後のコンクリートの性質や特性について理解させる。コンクリートの調合についても概略を理解させる。各種のコンクリートやコンクリート製品は、名称や特徴のおおよそを理解させる。	○		○	1学期期末考查
	4	基礎	地盤の構成や強さと関連させて、基礎形式を理解させる。杭の形式や種類、注意点についても理解させる。	○	○	○	
	5	躯体	柱や梁、スラブなど躯体の構成部材を配筋を含め理解させる。また、部材の断面寸法を考えられるようにする。また、耐震補強の必要性、方法の概略を理解させる。	○	○	○	
	6	6 仕上げ (1 外部仕上げ～2 内部仕上げ)	仕上げ材料の名称や特徴を理解させる。また、建築物の部位ごとに異なる自然条件や人工的な条件を把握し、要求される性能に応じた仕上げ材料の選択ができるようにする。	○	○	○	
7	6 仕上げ (3 開口部～4 階段)	開口部や階段の形式、部材名称、部材の配置を理解させる。	○	○	○	2学期中間考查	
8	7 壁式構造	壁式構造に含まれる各種の構造形式について、力学的特性の理解をもとに、耐力壁、壁量、厚さなどの概略を理解させる。	○		○		
2学期	9	8 プレストレストコンクリート構造	プレストレストコンクリート構造の構造形式の概略を理解させるとともに、おもな構成部材の力学的特徴も理解させる。	○		○	2学期期末考查
	10	第4章 鋼構造 1 構造の特徴と構造形式	鋼構造の特徴を把握させ、現在一般的に用いられている構造形式を理解させる。	○	○		
		2 鋼と鋼材	鋼の特性を理解させるとともに、建築物に用いられる鋼材の規格について理解させる。	○		○	
	11	3 鋼材の接合	接合の種類、方法、応力伝達の方法、接合要素の規格を理解させる。	○		○	
	4	基礎と柱脚	鋼構造に適した基礎や柱脚の種類や形式について理解させる。	○	○	○	
3学期	12	5 骨組 (1 骨組の構成～4 梁)	骨組の特徴を把握させ、ラーメン構造とブレース構造の構成部材とその名称、それらの働きを理解させる。また、部材配置や部材断面を考えられるようにする。	○	○	○	学年末考查
	1	5 骨組 (5 床～8 耐震・耐風計画)	筋かい、耐風梁、柱脚、床、階段それぞれに求められる性能、および構成部材や配置について理解させる。耐火被覆は構法の概略を理解させる。また、耐震補強	○	○	○	

		の必要性、方法の概略を理解させる。			
	6 仕上げ	外部仕上げ、内部仕上げ材料の名称や特徴を理解させる。開口部は、形式、部材名称、部材配置を理解させる。	○	○	○
	7 軽量鋼構造と鋼管構造	軽量鋼構造と鋼管構造の特徴を把握させ、構成部材と部材の接合方法について理解させる。	○		○
2	第5章 合成構造 1 構造のあらまし	合成構造の特徴を把握させ、材料の特性と配置箇所を理解させる。	○		○
	2 鉄骨鉄筋コンクリート構造	鉄骨鉄筋コンクリート構造の構成、使用材料、躯体の概要を理解させる。	○	○	○
3	3 コンクリート充填鋼管構造	コンクリート充填鋼管構造の構成、使用材料、躯体の概要を理解させる。	○	○	○

インテリア計画

教 科	工業	単位数	2	学科・学年	建築インテリア工学科 2年
使用教科書	インテリア計画（実教出版）				
副教材等	教員が作成したプリント				

「インテリア計画」の到達目標は

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、インテリアの計画に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) インテリア計画について住生活や工業生産を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) インテリア計画に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) インテリアを計画する力の向上を目指して自ら学び、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	インテリアの計画や内部空間に関する基礎的な知識の習得をもとに、インテリアに関わる諸事項を合理的かつ的確に遂行する技術を身に付け、社会への配慮を心がけたうえで活用することを理解している。	インテリアの計画や内部空間に関する基礎的な知識や技術の習得をもとに、インテリア空間の設計や施工をするときに生じる諸問題の解決を目指して自ら思考し、判断し創意工夫する能力を身に付け、その成果を適切に表現することができる。	インテリアの計画や内部空間、これらに関する基礎的な知識や技術の習得に粘り強く取り組むとともに、学習状況を把握し、自ら立てた学習計画により取り組もうとしている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・年間5回の定期考査 ・小テスト ・授業中の発言 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間5回の定期考査 ・小テスト ・授業中の発言 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言 ・ノートやレポートの記述 ・授業中の行動

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめ(単元)	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1章 インテリア計画の概要	・インテリア計画の概念について、住まいの安全と快適性の視点で捉え、科学的な根拠に基づき工業生産に関連付けて考察し、実践的・体験的な学習活動を行いその知識・技術を理解している。	・インテリア計画の概念について、住まいの安全と快適性の視点で捉え、科学的な根拠に基づき工業生産について思考・判断できる能力を身に付けるとともに、その成果を適切に表現することができる。	・インテリア計画の概念について、住まいの安全と快適性の視点で捉え、科学的な根拠に基づき工業生産に関連付けて考察し、実践的・体験的な学習活動に、自ら立てた学習計画により取り組もうとしている。
2章 インテリアの造形と心理	・インテリアと造形と心理について、人間の心理や行動に対しインテリア計画の視点で捉え、科学的な根拠に基づき工業生産に関連付けて考察し、実践的・体験的な学習活動を行いその知識・技術を理解している。	・インテリアと造形と心理について、人間の心理や行動に対しインテリア計画の視点で捉え、科学的な根拠に基づき工業生産に関連付けて考察し、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して学習した成果を適切に表現することができる。	・インテリアと造形と心理について、人間の心理や行動に対しインテリア計画の視点で捉え、科学的な根拠に基づき工業生産に関連付けて考察し、実践的・体験的な学習活動に、自ら立てた学習計画により取り組もうとしている。
3章 インテリアの環境	・インテリアの環境について、生活の変化や豊かで快適なインテリアの空間の視点で捉え、科学的な根拠に基づき工業生産に関連付けて考察し、実践的・体験的な学習活動を行いその知識・技術を理解している。	・インテリアの環境について、生活の変化や豊かで快適なインテリアの空間の視点で捉え、科学的な根拠に基づき工業生産に関連付けて考察し、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して学習した成果を適切に表現することができる。	・インテリアの環境について、生活の変化や豊かで快適なインテリアの空間の視点で捉え、科学的な根拠に基づき工業生産に関連付けて考察し、実践的・体験的な学習活動に、自ら立てた学習計画により取り組もうとしている。
4章 インテリアと人間工学	・インテリアと人間工学について、生活の変化や豊かで快適なインテリア空間の視点で捉え、科学的な根拠に基づき工業生産に関連付けて考察し、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、インテリアと造形と心理についての知識・技術を理解している。	・インテリアと人間工学について、生活の変化や豊かで快適なインテリア空間の視点で捉え、科学的な根拠に基づき工業生産に関連付けて考察し、実践的・体験的な学習活動を行うことを通して学習した成果を適切に表現することができる。	・インテリアと人間工学について、生活の変化や豊かで快適なインテリア空間の視点で捉え、科学的な根拠に基づき工業生産について学習状況を把握し、自ら立てた学習計画により取り組もうとしている。
1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、知識・技能（技術）を重視し総合的に判断して決定します。			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			考查範囲
				知・技	思・判・主		
1 学期	4	第1章 インテリア計画の概要	・インテリアの歴史、概念について理解する。	○	○		1 学期 中間 考查
		1 インテリアの概念 2 インテリア計画	・インテリアを計画するにはどのような過程からなりたっているか理解する。	○		○	
	5	3 生活と住まい	・住まいの捉え方を理解し、近代住宅の移り変わりや機能主義、要求条件の捉え方について理解する。	○		○	
		4 住まいの性能	・住まいに要求される条件や性能、環境保全と省資源について理解する。	○	○		
	6	第2章 インテリアの造形と心理	・感覚の特性、視覚と視覚特性、造形要素の知覚、聴覚・触覚と空間について心理的な要素を踏まえ理解する。	○	○		
		1 人間の感覚・知識と					
		2 形態	・点、線、面、立体などの心理的な要素と装飾の役割について理解する。	○	○		
7	3 色彩とテクスチャー	・光源色と物体色それぞれにおける三原色について理解し、配色基本や調和について理解する。		○	○	1 学期 期末 考查	
		4 空間の認知	・空間が与える心理的な影響について理解する。	○	○		
7	5 空間行動の諸相	・物理尺度と心理尺度について理解する。人の向きや距離が与える影響を理解する。	○	○	○		
2 学期	8	第3章 インテリアの環境	・気候や風土、気温や湿度、風と雨、日照と日射など屋外環境が与える影響について理解する。	○	○	○	2 学期 中間 考
		9 1 屋外環境					
	10	2 屋内環境	・採光と照明、音、空気など室内に影響を及ぼす要素について理解する。	○	○	○	2 学期 期末 考查
	11	第4章 インテリアと人間工学	・人間工学の意味を理解し、人体の寸法がどのように設計に活かされるかを理解する。	○	○		
12	2 動作・作業域・動作空間	・使いやすい住空間をつくるために、基本姿勢や日常動作の範囲を理解する。	○	○	○		
3 学期	1	3 家具と設備の機能寸法	・家具や設備と寸法の考え方について理解し、より快適で機能的なものづくりについて考察する。		○	○	学 年 末 考 査
		2 4 インテリアの安全 3	・日常災害について理解し、安全な住まいをつくるために必要な事項について考察する。		○	○	

インテリアエレメント生産（インテリア類型）

教 科	工業（建築インテリア）	単位数	2	学科・学年	建築インテリア工学科2年（選択）
使用教科書	インテリアエレメント生産（海文堂）				
副教材等	担当教員が配布するプリントや実物見本				

「インテリアエレメント生産」の到達目標は

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、インテリアエレメントの生産に必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) インテリアエレメントの生産について住生活を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) インテリアエレメントの生産に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。
- (3) 住生活の変化に対応したインテリアエレメントを生産する力の向上を目指して自ら学び、インテリア産業の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

1. 評価の観点の趣旨と方法

	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	建築物のインテリアエレメントの空間の構成や素材の特徴を把握し、空間設計に必要な基本的知識を身につけているとともに、企画・設計・施工と関連づけて理論的な納まりなどの技術・技能を考察し、生産管理や安全管理を理解する。	建築物のインテリアエレメントの専門分野の知識をもとに室内空間と人々の生活に対する課題をデザイン設計・計画の立場から多面的・多角的に諸課題の解決を目指して自ら考え、安全に配慮した判断、創意工夫する能力を身に付け、適切に表現する。	建築物のインテリアエレメントの構造や材料、納まりに関心を持ち、室内空間のインテリアの要素に対する関心と生産管理や安全管理を理解、課題意識を高め基礎的な知識や技術の習得に粘り強く取り組もうとしている。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・年間5回の定期考査 ・小テスト ・プリント記述 ・授業中の発言や取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間5回の定期考査 ・小テスト ・プリント記述 ・授業中の発言や取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言 ・プリントやレポートの記述 ・授業中の取り組みや意欲

2. 評価の規準（及び年間の評定）

内容のまとめり(単元)	知識・技能（技術）	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>第2章 インテリアエレメントの構造</p> <p>第1節 家具</p> <p>第1 分類</p> <p>1.家具の分類と種類</p> <p>2.家具の基本構造</p> <p>第2 椅子、ベッド</p> <p>1.小椅子の構造</p> <p>2.事務用回転椅子の構造</p> <p>3.ソファの構造</p> <p>4.ベッドの構造</p> <p>第3 テーブル、机、デスク</p> <p>1.甲板の構造</p> <p>2.木製デスクの構造</p> <p>第4 収納家具</p> <p>1.枠組み構成と構造</p> <p>2.引出の構造</p> <p>3.家具の戸の構造</p> <p>4.家具棚の構造</p> <p>5.単品家具とシステム家具</p> <p>第5 その他の家具</p> <p>1.和家具の構造</p> <p>第6 家具の強度</p> <p>第1章 材料と加工</p> <p>第6節 その他（天然素材や材料）</p>	<p>・建築物のインテリアエレメントについて、建築物の構造や室内空間の構成、素材の特徴を把握し、インテリア空間設計に必要な基本的知識や技術を身につけ、企画・設計・施工・納まりと関連づけて理解する。</p>	<p>・建築物のインテリアエレメントについて、建築の構造や室内空間の構成、素材の特徴を把握し、インテリア空間設計に必要な基本的知識や技術を身につけ、視覚的にも把握できるような絵図や設計図など諸資料を収集して、理論と実際の納まりなどを考察し、思考・判断できる能力を身に付けるとともに、その成果を適切に表現する。</p>	<p>・建築物のインテリアエレメントについて、建築の構造や室内空間の構成、素材の特徴を把握し、インテリア空間設計に必要な基本的知識や技能の習得に向けて根気強く取り組むとともに、学習状況を把握し、自ら立てた学習計画により取り組もうとしている。</p>
<p>第2章 エレメントの構造</p> <p>第2節 建具</p> <p>第1 建具の分類</p> <p>第2 内部用建具</p> <p>障子、唐戸、フラッシュ戸襖、框組戸、舞良戸</p> <p>第3 外部用建具</p> <p>玄関戸類、アルミサッシ</p> <p>雨戸、がらり戸、天窓</p> <p>第4 金具類</p> <p>第3節第4節テキスタイル製品</p> <p>第1 カーテン、窓廻部品</p> <p>第3 絨毯、カーペット全般</p> <p>第4 ホームリネン、寝具</p> <p>第6節 照明器具</p> <p>第3章 生産技術</p> <p>第1節 木材加工</p> <p>第1 生産設備と加工</p> <p>第4章 生産管理</p> <p>第2節 生産工程と安全管理</p> <p>第2 工場設計(施設設備等)</p>	<p>・建築物のインテリアエレメントについて、建築物の構造や室内空間の構成、素材の特徴を把握し、インテリア空間設計に必要な基本的知識や技術を身につけ、諸事項を環境への配慮を心がけたうえで合理的かつ的確に遂行、活用することを理解している。</p>	<p>・建築物のインテリアエレメントについて、建築物の構造や室内空間の構成、素材の特徴を把握し、インテリア空間設計に必要な基本的知識や技術を身につけ、適切に判断し、インテリアエレメントに対する設計、材料、加工、取り付け、納まりなどを創意工夫する能力を身に付けるとともに、その成果を適切に表現することができる。</p>	<p>・建築物のインテリアエレメントについて、建築物の構造や室内空間の構成、素材の特徴を把握し、インテリア空間設計に必要な基本的知識や技能に関心を持ち、これらの習得に向けて粘り強く取り組むとともに、学習状況を把握し、自ら立てた学習計画により取り組もうとしている。</p>
<p>1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、知識・技能（技術）を重視し総合的に判断して決定します。</p>			

3. 学習の計画と評価の観点

学期	月	学習内容	学習のねらい	評価の観点			調査範囲
				知・技	思・判・表	主体的態度	
1 学期	4	「インテリアエレメント生産」を学ぶにあたって	建築とは、インテリアとは、およびエレメントとは、何かを理解させ、これから学ぶことの概要を把握する。	○	○	○	1 学期 中間 考査 1 学期 末 考査
	5	第1節 家具 第1 分類 1.家具の分類と種類 2.家具の基本構造	建築物のインテリア空間を構成する主なエレメントとは何か理解し、家具や室内空間のより快適で機能的なものづくりについて考察する。 インテリアエレメントの主な脚物家具についてはどのような部分からなりたっているか、どのように納まっているのか理解する。	○	○	○	
		第2 椅子、ベッド 1.椅子・事務椅子構造 3.ソファの構造 4.ベッドの構造	事務椅子はじめソファやベッドの構造や用途について木製郭函の地が等を含めて理解する。	○	○	○	
	6	第3 テーブル、机、 2.木製デスクの構造	テーブルはじめデスクなどの構造や用途について理解する。	○	○	○	
		第4 収納家具 1.枠組み構成と構造 2.引出の構造 3.家具の戸の構造 4.家具棚の構造 5.特殊家具	甲板や天板の構造と納まりについて理解する。 収納家具のなかでも箱物家具の構造や用途、歴史について理解する。 枠組構造・枠組構造・板組と枠組構造等のそれぞれの特徴や構造、加工方法や組立方法を理解する。 単品家具・システム家具・ユニット家具等の特殊家具のそれぞれの特徴や構造、加工方法や組立方法を理解する。	○	○	○	
7	第5 その他の家具 1.和家具の構造 第6 家具の強度 第1章 材料と加工 第6節 その他 (天然素材や材料)	和家具の一般的な特徴を把握させ、現在用いられている構造形式、強度、材料や加工の種類と特徴の概要を理解し、インテリアエレメントの天然材料なども理解する。	○	○	○		
2 学期	8	第2章 エレメントの構造 第2節 建具	建築物の室内空間を構成する建具について機能や構造、取り付け方法、立て付けなどを学び、その納まりを理解する。	○	○	2 学期 中間 考査 2 学期 末 考査	
	9	第2 内部用建具、障子 唐戸、襖、枠組戸 舞良戸、雨戸他		○	○		○
	10	第3 外部用建具 アルミニウムサッシ がらり戸、天窓	外部周りの開口部について金属建具。樹脂建具などの構造や納まりを理解する。	○	○		○
	11	第4 内外装・建具金具	様々な内外装や建具金具について取り付け方法などを理解する。	○	○		○
	12	第3節第4節テキスタイル 第1 カーテン、窓回部品 第3 緞通、絨毯、 カーペット全般 第4 ホームリネン、寝具	建築物の快適な空間を演出する室内空間のテキスタイル製品について、窓回りや壁、床、天井を構成する特徴や機能について理解し、快適な室内空間に生かせるよう理解する。	○	○	○	
3 学期	1	第6節 照明器具	建築物の室内外空間の照明方法や計画について理解し、それらを構成する照明の基本を考察する。	○	○	3 学期 末 考査	
	2	第3章 生産技術 第1節 木材加工 第1 生産設備と加工	生産現場や工場の生産管理など日常工務災害について理解し、安全な生産工場をつくるために必要な事項について考察する。	○	○		○
	3	第4章 生産管理 第2節 家具生産の工程と 安全管理・工程管理 第2 工場施設設備設計		○	○		○

1年間の評定は、1学期・2学期・3学期の年間を通じて、知識・技能（技術）を重視し総合的に判断して決定します。